



東海中新聞

NO. 356

令和2年度 2月号

「が」を捨て 「げ」に生きる

校長 今枝武司

先日、訃報連絡が届きました。三代前半で教員駆け出しの頃、大変お世話になった当時の校長先生が亡くなられたという知らせでした。たくさん叱られましたし、たくさん褒めてもいただきました。気さくな方でお酒もたくさん一緒に飲みました。大変落ち込み悲嘆に暮れていましたが、先生に教えていただいた言葉を思い出しました。『俺が俺がの我を捨てて、お陰お陰の下に生きる』という言葉です。

当時の私は、担任と学校外の仕事をかけもち、部活動では年間百二十試合くらい練習試合をして、それでも涼しい顔をして同僚より早く帰るような、自己主張が強く自信過剰な教師だったと反省しています。恥ずかしいことですが、何でも自分が一番だと思いついて自分ならできると思っていました。せっかくなので周りの方々が自分のために協力してくださろうとしているのに、それを断って「いや自分が」、「ここは自分が」と我を通してしまっていたと思います。そんな時、周りの先生方と一

緒にこの言葉を教えていただいたと記憶しています。

当時の私にはピンときませんでした。「校長先生は謙虚に生きなさい」と言っているのだというくらいにしか捉えていませんでした。「謙虚」にマイナスのイメージさえもっていました。人に頭を下げ、自己主張することのない謙虚な人は、プライドも自信もない人のことだと思っていたからです。

しかしそうではありませんでした。謙虚な人とは、きちんと自分に誇りをもっていて、卑屈になることはありません。卑屈にならないというのがポイントです。自信がなくて自己主張をしないのではなく、自信をもった上で、さらに自分を高める意欲をもち続け、必要以上に自分が前に出ることせず、周囲の人を尊重している人のことです。その校長先生はそういう人でした。だから、多くの方々から尊敬されていました。

全豪オープンで優勝した大坂なおみ選手のおじいさまは「人間的によくないといけない。強いからと言って生意気になつてはいけない」と、常に謙虚にと言われたそうです。

今こうして生活できるのも、家族や周りの方々のおかげだと感謝し、「が」を捨て「げ」に生きます。あの校長先生に教えていただいたように。

生徒 学校教育診断票結果

A:よくあてはまる B:ややあてはまる
 C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない
 ■ A+B ■ C+D
 前年比は四捨五入で3%以上になるものを掲載。

No.	診断内容	前年比	A+B	C+D
1	学校へ行くことが楽しい。	+5.2	85.7	14.3
2	私たちの学校は、あいさつや返事がしっかりできる。		94.3	5.7
3	学校の行事に積極的に参加している。		91.0	9.0
4	生徒会活動(ボランティア清掃など)に、積極的に参加している。	+3.0	75.0	25.0
5	学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる。		80.0	20.0
6	授業や行事などの中で、外部の講師の方から学ぶことができる機会がある。	-3.2	92.4	7.6
7	授業では、課題を追究する学習が多くあり、積極的に取り組んでいる。		86.2	13.8
8	授業では、進んで自分の意見や感想などを言うことができる。	-3.2	58.8	41.2
9	授業では、友達の意見や感想をよく聞くようにしている。	+3.6	95.7	4.3
10	授業の中で、友達に教えてもらったり、教えたりしている。	+3.6	95.2	4.8
11	授業の中で自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。		80.0	20.0
12	授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている。	NEW	77.4	22.6
13	授業でできるようになったことが多い。	NEW	86.9	13.1
14	タブレットを活用して考えたり、意見などをまとめたり、発表したりしている。	NEW	79.5	20.5
15	総合的な学習の時間では、自らの課題を体験活動などを通して学んでいる。	-4.4	82.4	17.6
16	道徳の時間などを通して、命の大切さを学ぶことができる。		91.0	9.0
17	部活動は楽しく、積極的に取り組んでいる。(取り組んだ)		91.2	8.8
18	学級生活をよりよくするために、話し合ったり協力したりして解決できる。	-4.6	86.2	13.8
19	自分が困ったり悩んだりしたとき、相談できる友達がいる。	+6.0	89.8	10.2
20	周りの人が困ったり悩んだりしたとき、相談に乗ったり助けたりしている。		92.4	7.6
21	学級の係活動などに責任をもち、積極的に取り組んでいる。		93.1	6.9
22	通知表は、自分の学習や生活の様子・努力をよく表している。	+3.2	91.7	8.3
23	学級・部活動・地域などにおいて、周りの人の役に立つような行動をしている。	-10.2	83.3	16.7
24	自分には、よいところがあると思う。		74.8	25.2
25	私たちの話をよく聞いてくれる先生がいる。	+5.7	88.8	11.2
26	先生たちは、明るく活動的である。	+15.1	95.2	4.8
27	困ったり、悩んだりしたとき、相談できる先生がいる。	+8.4	70.2	29.8
28	先生は、いじめや問題行動に真剣に対応してくれている。	+9.5	89.0	11.0

< 1 学校が楽しい >

学校が楽しいと答えた生徒が増えたことは一番うれしいことです。そこには、相談できる友達や話を聞いてくれる教員への信頼があることがわかります。今後も、生徒が通いたくなる学校・保護者が通わせたい学校を目指し、温かくて家族のような魅力ある学校づくりに努めます。

< 15 総合的な学習の時間 >

岡崎特別支援学校との交流や職場体験など、できなかった活動もありましたが、これまでの学習を引き継ぎ、加えて防災学習やSDG'sの学習も積極的に取り組んでいきます。

< 18, 23 話し合い、役に立つ行動 >

減少した項目の多くは、コロナ禍で集団としての行動に制約を受ける中で、活動そのものの機会が減ったことや、他者との建設的な活動ができなかったことが原因であると思われます。

コロナが落ち着き、通常の学校生活を送ることができるようになったら、生徒同士や生徒と教職員とのかかわりが有効的にはたらく活動を大切にしていきたい。

保護者 学校教育診断票結果

A:よくあてはまる B:ややあてはまる
 C:あまりあてはまらない D:全くあてはまらない
 ■ A+B ■ C+D
 前年比は四捨五入で3%以上になるものを掲載。

No.	診断内容	前年比	A+B	C+D
1	学校は、教育目標・教育方針を分かりやすく知らせている。		85.2	14.8
2	学校は、保護者・地域の要望や願いに応えようと努力している。	-3	83.0	17.0
3	学校は、教育活動に関する情報を積極的に伝えている。		86.0	14.0
4	学校は特色ある教育活動を展開している。	-3.5	79.0	21.0
5	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。	+3.4	84.0	16.0
6	学校は、子供の学びを深めるために授業を工夫している。		70.7	29.3
7	学校は、読書を重視し、豊かな心を育もうとしている。	-3.7	77.0	23.0
8	学校は、生命を大切にすることを育んでいる。		82.0	18.0
9	学校は、規則や社会のルールを守る態度を育てようとしている。		91.4	8.6
10	学校は環境教育に力を入れている。	+5.1	85.0	15.0
11	学校は、ボランティア教育(学区清掃等)に力を入れている。		87.4	12.6
12	学校は、防災教育に力を入れている。		73.2	26.8
13	学校は、設備や掲示物、緑化など環境整備に努めている。		85.4	14.6
14	学校は、学校新聞や学年通信等を通して学校の様子がよく分かるようにしている。		91.4	8.6
15	学校は、授業参観の機会を増やすことにより、学校の様子がよく分かるようにしている。	-11.5	77.0	23.0
16	学校は、保護者や地域の人たちと接する機会を多く設けるよう努めている。		72.7	27.3
17	学校では、PTA活動が充実している。		82.9	17.1
18	学校の教育活動に、保護者や地域の人たちがボランティアとして積極的に参加している。	-5.1	74.3	25.7
19	校長は、学校経営についてリーダーシップをよく発揮している。		80.6	19.4
20	先生は、一人一人にきめ細やかな指導を工夫している。		71.9	28.1
21	先生は、総合的な学習の内容を分かりやすく知らせてくれている。		75.1	24.9
22	先生は、子供の能力や意欲を適切に判断し、認めてくれている。	+6.3	85.3	14.7
23	先生は、子供のまちがった行動を適切に指導してくれる。	+4.5	87.2	12.8
24	先生は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。	+5.6	84.7	15.3
25	先生は、さまざまな教育活動を通して、子供たちに豊かな心を育てようとしている。		87.2	12.8
26	先生は、子供の気持ちをよく理解し、人権を尊重してしてくれる。	+7.3	84.9	15.1
27	子供は、学校へ行くのを楽しみにしている。		77.1	22.9
28	子供は、授業のできるようになったことが多いと言っている。		58.1	41.9
29	子供のことについて、気軽に先生に相談できる。	+4.8	72.2	27.8
30	子供は、学校に信頼できる友達がいると言っている。		90.0	10.0
31	子供は、体育大会や文化祭などの学校行事を楽しみにし、積極的に参加している。		89.7	10.3
32	子供は、部活動に積極的に参加している。(参加した)		90.9	9.1

< 2 8 授業について >

生徒アンケートの13では、86.9%の生徒が「授業のできるようになったことが多い」と答えているものの、保護者の方々は58.1%でした。自由記述から『学び合い』から脱却しきれていない授業や家庭学習を不安視する意見を多くいただいた。今後の重要な課題です。『学び合い』の授業を見直すことや、入試に直結する基礎学力を身につける授業も大切にして取り組んでいきます。

< 2 2, 2 4, 2 6 教員への信頼 >

保護者の方々が教員を信頼して下さっていることをうれしく思います。いじめ問題など、決して許さないという姿勢をくずさず、生徒に寄り添っていきます。今後も生徒たちが良好な人間関係の中で生活できるよう、教師の人間性、指導性を高めていきたい。

< 4, 7, 1 8 特色ある学校 >

豊かな心と自己肯定感を育むことを目指し、生徒活動や総合学習に力を入れていきます。生徒活動を生徒が創り上げることによって満足感が得られ自己肯定感につながると考えます。また、ボランティア活動など、積極的に地域と協力する活動を行うことで地域から愛される学校づくりに努めます。

◎学校教育診断票 保護者自由記述欄（記述内容を常体に変更して抜粋で記載）

<学習について>

- ◆自主性を重んじる学習法だが、できていない子のフォローに手が回っていない気がする。これでは東海中自体の学力低下につながると思う。教えない学習法ではなく、もっと生徒の様子を見てできていない子には教えて分らせる必要があると思う。それが教師であり学校の役割。せめて一年生のうちはどんな学習法をしたらよいか教えてもらえたら戸惑わずに済んだ気がする。
- ◆解き方が分からないのに分かるまで生徒同士で教え合う時間が理解できない。積極的に学び合いに参加できない生徒もいると思う。基礎はきちんと教えてからお願いします。学校で理解できず、塾で理解していることが多い。学校で学べるよう学び合いを見直してくほしい。
- ◆授業のやり方について疑問に思っている。子供は学び合いだから先生は何も教えてくれないと言っている。先生は授業をしないで授業中に何をしているのか？学び合いが本当に子供たちのためになっているのか？
- ◆宿題を自分で決めるのはとても良いことだと思うが、毎日どれくらいやったのか、同じ教科ばかり等の偏りなど、一定数ここまでやる的なのが多い。小学校の頃より宿題が少ない日が多く見られる。勉強が苦手な子は自分で決めるのが難しくないか？学力に差がつくのが心配。
- ◆勉強が楽しいと思えないらしく、勉学に積極的に取り組めていない。進路について低学年から情報を公開し、目標をもって取り組むことができたと思う。選択肢が見える状態にあるとモチベーションが上がるだろう。この高校なら全部理解できていなくてもここまで理解する・覚えるなど個々のレベルにあった取り組み方をしてほしい。

<教師対応について>

- ◆わざわざ縛らなくていい長さの髪の毛にしたのに、タスキが見えるようにしなさいと先生に言われ、朝からしばれない髪の毛を必死に縛ろうとする姿がありました。どうすればいいのか見本ください。そういう髪型の子にタスキのかけ方を教えてやってください。親にも分かりやすく。

<学校全般について>

- ◆診断票の質問内容がおかしいと思う。例えば15番の質問（学校は授業参観の機会を増やすことにより、学校の様子がよく分かるように努めている）は、授業参観の機会を増やすことが良いと思っている人が作成している。概念にとらわれ過ぎている。答えようがない。ここで書いたところで届くとは思っていないが。
- ◆本年度はコロナ対応などで先生方も大変な中、生徒のことを第一に考えてくださっている様子が、ホームページ、手紙、子供との会話で大変伝わってきた。感謝しかありません。ありがとうございました。HPのトップページの写真も以前と比べよくなっていると思う。
- ◆学習面、なかなか結果がでないものの子供の頑張りを見つけてくれ褒めてくれる先生方に、子供が苦手ながらも向き合ってくれている。部活動も同様である。何気なくかけてくださる先生方の声に子供は励まされ日々頑張っている。いろいろと難しい年頃だが先生方に感謝しかない。
- ◆アンケートの回答に「わからない」を追加してほしい。

◎保護者の方々、貴重なご意見をありがとうございました。真摯に受け止め、反省すべき点は反省し、今後も子どもたちのため、今まで以上に襟を正し、生徒が通いたくなる学校、保護者の方々を通わせたい学校を目指していきたいと思います。

教育随想

やまなみ

生徒・保護者・教職員が手を携えて
進路指導主事 竹内 翔

私事だが、昨年度待望の息子が生まれた。息子は他の子とコミュニケーションをとることが苦手で、すぐに泣き出してしまふ。そんな姿を見て愛おしく思う反面、今後周りの子とうまくやっけていけるか心配にもなる。これから息子が成長していく中で、屈託のない笑顔でいられるような人たちと出会えたら親として本当にありがたいと、少し気が早いとは思いますが、そう思う。

さて、公立高校受検が間近に迫っている。公立高校を受検する生徒たちは今、不安と緊張でいっぱいだと思う。四月からの進路先が決まっている生徒は、新しい生活への大きな期待で胸を膨らませていることだろう。受検を控えている生徒も、同じように、前向きな気持ちで四月を迎えてほしいと思う。

しかし、どの進路先に進むかということ以上に、進路先でどのような生活ができるかということが大切だと思う。新しい環境でどのような出会いがあるか、その先幸せな人生を送ることができるか。それこそが進路選択をしていく上での生徒・保護者・教職員の共通の願いだろうと思う。今年度も生徒たちが明るい未来に力強く踏み出せるよう、生徒・保護者・教職員が手を携えていけたことに感謝している。

中学校卒業後、一人一人の生徒が周りの人に愛され、支えられ、笑顔で過ごせることを願っている。